

番号	意見要旨	区の考え方
1	公園でカニを調査するため、罟を設置したところ撤去された。個人でも生物調査ができるようにしてほしい。	公園管理上支障となるため、管理者の許可がない生物調査はできません。一方で本戦略においては、「区民・児童生徒・民間団体等の協力による生物調査」として進めていくことを記載しており、今後、具体的な方法等を検討してまいります。
2	エコロジカルネットワーク強化を重視すべき。大島九丁目すすく公園の整備は、整備以前の草原から比較すると生態系保全に逆行しており、荒川から猿江恩賜公園など区内全域をつなぐネットワークの整備を進めてほしい。草刈り方法の工夫や区民参加の保全活動もしていったらどうか。	公園整備は、生物多様性への配慮とともに多様な利用方法の提供や安全性の確保も重要であると認識しております。生物多様性に配慮した公園管理については、東京都等と調整を行いながら、現在検討中の「(仮称)江東区公園マスタープラン」において本戦略の内容を踏まえた管理手法を反映するよう調整していきます。本戦略で検討した内容や皆様からのご意見を踏まえ、区内外をつなぐエコロジカルネットワークの維持・強化を進めてまいります。
3	区内には多様な生物がいることは理解できたが、日常生活では身近な生きものや取組に気づきにくい。区民が行動しやすいよう、身近にできる取組の提示や、アプリ等で手軽に生きものを調べられる仕組みを用意してほしい。	区民の皆様が身近に取り組める内容については、第4章で整理しており、概要版にも分かりやすく掲載します。生物多様性への関心向上は重要と認識しており、普及啓発を進める中で、アプリ等も活用し、生きものを知り・調べる機会の充実に努めてまいります。
4	子どもが生き物が好きで、小学校にあるポケットエコスペースに興味を持った。しかし、通学予定の小学校には設置されていないため、ポケットエコスペースを増やしてほしい。	ポケットエコスペースはエコロジカルネットワークの重要な拠点と認識しております。ただし、学校敷地内への設置は安全管理や維持管理に課題があるため、今後、関係部署と課題を共有しつつ、設置の可能性について検討してまいります。
5	生物多様性は抽象的で共有しにくい概念であるため、江東区の主要な環境タイプごとに代表的な生きものを設定し、生態系の標準イメージを示してはどうか。外来種であっても地域に定着したものは「江東区の生きもの」として扱うことも検討すべき。	代表的な生きものを示すことは有効と考えておりますが、人によって身近に感じる生きものは異なるため、本戦略では特定の代表種の明確な設定は控えております。今後、戦略の周知を図る中で、区民の皆様が考える代表的な生きものについて意見を伺い、理解促進につなげてまいります。また、第4章4-1の記載を見直しを行いました。
6	昭和20年の東京大空襲は江東区の自然環境と生物相に甚大な影響を与えた重大事であり、「戦争」と一括りにするのではなく、被害を免れた自然の残存状況や在来種の復活過程など、生物多様性の変遷として明確に記述すべき。	東京大空襲後の環境変化は生物多様性に大きな影響を与えた出来事と認識しており、第4章II-3に、海岸の埋立や東京大空襲等による環境の大きな変化と生息・生育環境の変遷について次世代へ引き継ぐ旨の記述を追記しました。今後も歴史的経緯を踏まえた生物多様性の理解促進に努めてまいります。
7	1973年以前は生物調査の記録が乏しいため、住民参加型の「緑の国勢調査」や「生きもの地図づくり」を実施し、変化を記録すべき。また、外来種や遺伝的固有性だけにとらわれず、親しみやすい「生きものふれあい空間」を公園に創出し、都市型ネイチャーポジティブ施策を進めてほしい。	今後の施策検討の中で参考にさせていただきます。

番号	意見要旨	区のお考え方
8	江戸期の生きもの紹介に当時の環境を示す図やイラストがなく分かりにくい。また、現在の希少種も写真のみで、生息場所や生態系とのつながりが示されていない。生態系タイプの分類も、施策との関係が不明瞭で分かりづらい。	希少種の生息場所については乱獲の懸念があるため、詳細な位置の掲載は控えております。また、生態系タイプの分類は区の課題抽出を目的としたものであり、第2章での整理としております。わかりにくい点については、概要版において要点を簡潔に整理し、区民の皆様理解を深めていただけるよう努めてまいります。
9	地域戦略の将来像・目標に目標種が示されていないため、どの生態系を重点的に保全・回復するのが分かりにくい。目標種を設定することで戦略の方向性が明確になるはずであり、「江東プラン」の目標種も参考に、設定を検討すべき。	シンボル種の設定は、生物多様性への理解や関心を高める上で重要と認識しております。今後、生物多様性に関する認知度向上を図りつつ、多くの方のご意見を伺いながら、シンボル種の設定を検討してまいります。本戦略では、第4章4-1に「江東区のシンボル種と生息・生育地の保全」を施策として位置付けております。
10	区民・団体・事業者など多様な主体の視点が十分に反映されておらず、既存事業の枠組みのまま整理されているように感じる。役割分担も主体別に整理されていないため、区民や事業者が主体的に行動するための足掛かりになりにくい。より多様な視点を踏まえて戦略を作り直す必要がある。	本戦略の策定にあたっては、委員会での議論やイベントでのアンケート、パブリックコメントを通じ、行政以外の多様な主体の皆様からご意見を把握しております。いただいたご意見を踏まえ、今後も多様な主体と連携しながら、生物多様性の保全に取り組んでまいります。
11	生物多様性の3つの視点の順序が一般的な並びと異なる。また、使用されている写真に薄くクレジット表記が見えるため、著作権上の問題がないか懸念がある。	生物多様性の3つの視点の並び順を修正しました。写真についても適切な画像に差し替え、著作権上問題のない形で対応しております。
12	P29の表2-2に記載された「イシガメ」は「ニホンイシガメ」の誤記ではないか。また、海の森公園で確認された個体は移入の可能性が高く、確認種として掲載するのは適切でないのではないか。	「イシガメ」は「ニホンイシガメ」に修正しました。海の森公園での確認個体には移入の可能性もございますが、ほかの場所でも同様の可能性があるため、現在確認されている種として記録を残しております。
13	P31の表2-3は現地調査と文献調査の結果を合わせて示すべきではないか。また、重要種について本文にも説明を加えてほしい。	文献調査のデータにつきましては、別途作成する資料編に掲載する予定です。重要種については、「P32 2) 現代の生きもの」の冒頭に『100種近くの重要種も確認されています』という内容を追記しました。
14	P61「図2-10」の重要度の表示が見えにくく、樹林地と同様に丸印などで示した方が分かりやすいのではないか。	図で使用しているデータは細かなポリゴンで構成されており、丸印での表現が難しいことから、現在の表記方法としております。
15	P65「図2-12」が何を示しているのか分かりにくい。また、生態系タイプ「エ」の代表的な施設である屋上緑地などが反映されていないのではないか。	図2-12は人工物が多く存在する状況を示したものです。屋上緑地につきましては、凡例が煩雑となるため、表示を控えております。
16	P67「図2-13」では湿地や池の面積情報しかなく不十分である。湿地・池を含むエコスペース全体の面積を使用し、情報がない場所は航空写真による推定を用いるべきではないか。	本解析では、淡水域のつながりを把握するため、ポケットエコスペースおよび湿地・池のデータを使用しております。なお、過去図面等から水面の面積情報を収集し、再解析を行いました。

番号	意見要旨	区の考え方
17	P55～P67では面積と距離のみでつながりを解析しているが、この結果を第3章の施策検討に用いるのであれば、生物の生息・生育状況も加えた解析を行う必要があるのではないかと。現況調査の実施目的が不明確になりかねない。	現地調査は、文献では把握しきれなかった地点の生物相を確認することを主目的として実施しております。生物データは、解析に直接組み込むのではなく、解析結果を検証するために活用する方針としました。これらの情報の一部は、第3章（P100以降）の図面に反映しております。
18	P74の記述内容は事業者の取組の現状を示すものではなく、タイトルとの整合性が取れていないように見えるため、修正すべきではないかと。	ご意見を踏まえ、記載内容に合わせてタイトル等の表現を見直しております。
19	P80の「逸出の現状」が犬・猫のみの記載となっており不十分である。アメリカザリガニやアカミミガメといった条件付特定外来生物についても記載すべきではないかと。	アメリカザリガニやアカミミガメについても、飼育放棄や逸出が問題となる点を追記しました。併せて、ペットとして飼い始めた生きものは最期まで責任を持って飼育し、飼えなくなった場合は適切に譲渡することが必要である旨を記載しております。
20	P81の記述は、ごみそのものが環境ホルモンであるように読める不適切な表現となっている。環境ホルモン（内分泌かく乱物質）やマイクロプラスチックの問題について、正確な説明に改めるべきである。	ごみに含まれる内分泌かく乱物質が溶出することで生息・生育環境に影響を与える旨に記述を修正しました。マイクロプラスチックについても、誤解のないよう表現を整理しております。
21	P82でCO <sub>2</sub> 排出量を地球温暖化の「現状」を示すものとして扱っているが、これは適切ではない。温暖化の状況を示すのであれば、気温の変化や異常気象、ヒートアイランド現象なども含めて記載すべきである。	ヒートアイランド現象に関する記述を追加しました。また、CO <sub>2</sub> 排出量については、地球温暖化の「原因」を示す指標として紹介している旨が明確になるよう文章を修正しております。加えて、近年の気温上昇の傾向を分かりやすく示すため、直近10年間の日平均気温のグラフを追加しました。
22	P133の評価指標に示された目標値が低すぎるのではないかと。2030年を目指すのであれば、より高い目標値を設定すべきではないかと。	2030年までの目標として、直近で実施可能な範囲を踏まえた数値を設定しております。今後、施策の進捗や達成状況を確認した上で、2030年以降の目標値について検証を行ってまいります。
23	資料編が未公開で調査範囲や分析内容が不透明である。また、江東区版レッドリストや外来種リストが整備されておらず、第3章以降の議論の前提が不足している。希少種の保全計画や外来種防除計画を戦略に組み込むべきであり、生物多様性戦略として「生物」が十分に扱われていないように感じる。	資料編は現在取りまとめ中であり、戦略策定と同時に公開する予定です。文献調査の内容は本編にも随所で反映しております。ご意見を踏まえ、第4章に「4-2 重要種の保全」を追加し、特定外来生物については第I-③で整理しております。
24	NPO法人の水鳥調査では、オナガガモやホシハジロなどの減少が確認されている。内部河川や海辺は垂直護岸や遊歩道整備が進み、水鳥が休息できる場が少ない。横十間川ではヨシ原などを整備し、水鳥の隠れ場を確保すべきであり、仙台堀川公園もワンド等の生息環境を再整備すべき。内部河川・親水公園全体を生物多様性の視点で見直してほしい。	内部河川については、内部河川整備計画に基づき東京都が整備を行い維持管理を区で行っております。区では生物多様性の保全に配慮した維持管理について検討するとともに、ワンド等の整備について東京都に働きかけてまいります。親水公園についても、現在策定中の「(仮称)江東区公園マスタープラン」において、生物多様性の視点を踏まえた公園整備について検討してまいります。

番号	意見要旨	区の考え方
25	江東区には大規模な水鳥・森林性鳥類が生息できる空間がなく、東京湾奥の野鳥生息地の連続性が途切れている。夢の島周辺の水域などに干潟・樹林地等を整備することで野鳥保護区を形成でき、ネイチャーポジティブにはその規模の施策が必要ではないか。	江東区の大部分は国または東京都の鳥獣保護区に指定されており、法に基づく対応を行っております。夢の島周辺等の水域につきましては、生物多様性の拠点としての可能性を認識しており、今後、管理者である東京都と連携しながらネイチャーポジティブの実現に向け取り組んでまいります。
26	海の森に残る砂礫地・裸地は極めて希少であり、特有の生態系として重要性を戦略に明記すべきである。都内でもほとんど残っていない大規模砂礫地であり、他に代替できない価値を有するため、初期相を維持する管理方針を計画に盛り込むべきである。	第一の危機【視点④】に、海の森公園に砂礫地・裸地が残されている現状と課題を追記しました。海の森公園は「江東区みどりの基本計画」でも拠点として位置付けられており、本戦略でも「みどり・生きもののエリア」として整理しております。砂礫地・裸地の扱いについては、東京都に必要性を伝えていくとともに、生物多様性に配慮した取組みについて働きかけてまいります。
27	自然共生サイト認定数の目標値が低く、区が主体的に認定を目指す姿勢が見えにくい。区が管理する緑地には認定可能性のある場所が多く、より意欲的な目標にすべきである。また、備考欄の「民間の取組」では自治体主体の区域が対象外に見えるため、不適切である。	認定数の目標は、2030年までに現実的に認定が見込まれる数として設定しておりますが、今後、実績を踏まえて目標値の見直しを検討してまいります。備考欄については、「企業や自治体等の多様な主体の取組等によって」に文言を修正しました。
28	エコトーン創出は重要な課題であり、現在の「6-1 ポケットエコスペース改修等」に含めるだけでなく、独立した取組として具体的な数値目標を設定すべきである。水路が多い江東区では、水辺環境の改善がエコロジカルネットワーク形成の鍵となるため、垂直護岸の改善も含め、水辺の機能向上を強化すべき。	エコトーンについては生物の生息環境や移動経路等として生物多様性において重要な役割を担っているものとして認識しております。内部河川等の護岸整備については、東京都が実施しているため、エコトーンの創出も含め、生物多様性に配慮した整備について働きかけてまいります。また、親水公園については、現在策定中の「(仮称)江東区公園マスタープラン」において、生物多様性に配慮した整備の視点が反映されるよう調整してまいります。
29	素案は分かりやすくまとめられており好印象である。ビオトープの維持管理は大変だと思うが、ぜひ継続してほしい。幼児期に参加した自然体験イベントがとても良かったため、こうした取組を継続・拡充してほしい。	ビオトープ(ポケットエコスペース)については、引き続き適切に維持管理をおこなってまいります。また、自然観察会や田んぼの学校などの取組を継続するとともに、ビオトープやアプリを活用した新たなイベントの実施についても検討してまいります。